

- 情報技術が社会を大きく変える！！ ホント？  
技術と社会の関係は単純ではない。  
30年前から、モデルチェンジしながら、ずっと同じようなことが言われている。  
cf. 佐藤1996, 31-36

- 情報化社会論の二つの系列 矛盾？  
「ポスト近代社会」 vs 「ハイパー産業社会」  
脱工業化 モノより情報  
第三の波 もっと便利になる  
近代社会の終焉 個人の時代になる

矛盾したまま、両方が存続していられるのはなぜか？  
情報化社会の実体はあるのか？→ 存在しない。永遠に未来社会である。  
なんでもない=なんでもである！

- ポスト近代社会論の大物：マクルーハン、ベル、トフラー

マーシャル・マクルーハン

『グーテンベルグの銀河系－活字人間の形成』原著1962

『メディア論－人間の拡張の諸相』原著1964

ホットなメディア：高精細で非参加的、一方向：ラジオ，活字，写真，映画，講演

クールなメディア：低精細で参加的、双方向：電話，話し言葉，漫画，テレビ，セミナー

あらゆる技術は人間の感覚能力や運動能力の拡張。e.g.車輪＝脚の拡張

メディア技術の変化による時代区分

話し言葉の時代 local and synchronous, intimate

活版印刷の時代 視覚の独立。黙読する活字人間＝共同体からの切断＝個人主義

電気メディアの時代 主にテレビ。感覚と感覚の相互作用の回復。

global villageへ。

ダニエル・ベル

『脱工業社会の到来－社会予測の一つの試み』ダイヤモンド社、1975（原著1973）

中心的産業部門による時代区分

前工業社会 農業、常識と経験、資源、伝統主義

工業社会 工業、経験と実験、エネルギー、経済成長主義

脱工業社会 サービス業 抽象的理論、情報、知識中心主義

「脱工業社会」への変化の5つの次元

経済部門 財貨生産部門からサービス部門へ

職業分布 専門職、技術職階層が優位

社会の基軸原理 技術革新と政策決定のための理論的知識

技術の成長 社会的に計画管理し、将来の方向付けのための技術管理・評価

意思決定 知的技術を用いたシステム分析に依拠

アルビン・トフラー

『第三の波』中公文庫、1982（原著1980）

1. 農業革命 一万年前
2. 産業革命 19世紀
3. 情報革命 1955-65@USA

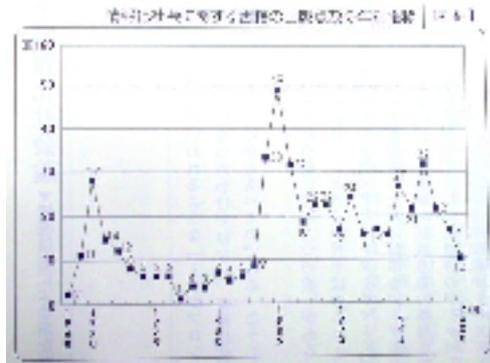
ホワイトカラーがブルーカラーを上回る。

prosumer=producer + consumer

中央集権的国家、マスメディア、マス市場の終焉

90年代、ゼロ年代？

● 日本社会における「情報化社会論」の時期区分



情報化社会に関する書籍の出版点数の年別推移 [古川2001, 210]

1. 言説主導の「情報化」 1970年代  
未来予測ブーム  
マクルーハンとベル  
農業／工業／情報（梅棹忠夫）  
典型的技術決定論かつ経済中心主義かつ文明論的  
モノばなれ、コンピュータよりテレビ  
※現代的な「情報化」の諸概念はこのころすでに発生していたが知られていなかった。  
e.g. ダウンサイジング、ネットワーク、マルチメディア、インタラクティブ etc.
2. システム中心の「情報化」と諸問題の顕在化 1980年代  
「ニューメディア」ブーム。  
中央官庁主導。  
技術中心，ハード中心。自己目的化。  
e.g. キャプテンによる半端な予約システム  
ネットワーク的・分散的思考はない。
3. コミュニケーション中心の「情報化」 1990年代  
マルチメディアとインターネットのブーム  
CMCネットワークの現実的普及。  
パソコン通信，インターネット，iモード  
全世界に情報を発信する個人=prosumer

- イージーな技術決定論に陥ってはならない。  
 技術が社会を「情報化」するのではない。  
 技術は社会・文化によって選択されており、本質的には社会・文化に決定力がある。  
 情報化社会論の多くは「技術予測の名を借りた未来社会への願望にほかならない。」  
 本当の問題は、社会の変化が「技術の必然として語られている点にある。」  
 技術決定論は、社会の選択責任を隠ぺいし、責任回避の構造を生み出してしまう。  
 e.g. こどもにケータイをあたえるな！, ゲーム脳

× 情報・メディア技術 → 情報化社会

○ 情報・メディア技術  
 ↑↓ → 情報ネットワーク社会  
 社会・文化

### ●関係性のデザイン

Web 2.0  
 データベース×データベース  
 知識創造、SECI モデル  
 EPIC2014  
 マッシュアップの基盤としての地図

### 【参考文献】

- 吉田純『インターネット空間の社会学：情報ネットワーク社会と公共圏』世界思想社，2000  
 マーク・ポスター『情報様式論』室井尚+吉岡洋訳，岩波書店，1991  
 佐藤俊樹『ノイマンの夢・近代の欲望』講談社選書メチエ，1996  
 マーシャル・マクルーハン『ゲーテンベルグの銀河系－活字人間の形成』みすず書房、1986（原著 1962）  
 マーシャル・マクルーハン『メディア論－人間の拡張の諸相』みすず書房、1987（原著1964）  
 テレンス・ゴードン『マクルーハン』宮澤淳一訳，ちくま学芸文庫，2001  
 ダニエル・ベル『脱工業社会の到来－社会予測の一つの試み』ダイヤモンド社、1975（原著1973）  
 アルビン・トフラー『第三の波』中公文庫、1982（原著1980）  
 古川一郎+電通デジタルライフスタイル研究会編『デジタルライフ革命』東洋経済新報社、2001  
 公文俊平『情報社会学序説』NTT出版，2004